

特集◆◆◆◆「海技の伝承」 救命筏の基礎知識

◆ 船員の命を守る ◆⑩ 生き抜くために必要な「救命いかだ」の知識

洋上を航行する船舶には海難に遭遇した場合に備え、命を守るための救命艇や「救命いかだ」などが設備されており、万が一の不幸な事態を避けるため、救命いかだに関する知識は必要不可欠である

「生存指導書」でのポイント

「生き抜くために望みを捨てるな。救助は必ずやってくる。」

必ず救助される機会は得られる。この希望を捨ててはならない。

食糧の配分

食物は少なくとも40日は生きられることを多くの実例が示している。糧食係を決め、リーダーの指示に従って食物を公平に分配しよう。

糧食係の心得

糧食係は、機知を働かせ艇内を明るくすることが大切だ。味気のない航海のただ一つの楽しみは、食事であり、トラブルが起こるのも食事からである。

乗艇者は、食糧や、飲料水が多く配られるようにそれぞれ何かしら機知に富んだ策略をめぐらすものだから、このような状態をかもしださないように、公正な取り扱いと公平な分配をするように努力する必要がある。また、毎日変化のない海上においての楽しみは、食事であるから、ユーモアに富んだ行ないによって、笑いをかもしだすように努力する。

少ない食物を食べるコツは、腹をこわさぬという感じを出させるため、ゆっくり噛むように導かねばならない。特に海藻の場合は、ゆっくりよく噛むようにする。

生きながらえるための秘策は、物質的に多い少ないといったことではなくて、リーダーを中心とする団結と精神力、そして秩序の維持である。この秩序の維持は、食糧の配給しだいでは、くずれてしまうものであるから配給と管理は厳然たる態度で公平にやらなければならない。

航海し始めてから24時間は何も食べないこと

食物がなくても水さえあれば、35日から40日は生きながらえることができるのである。漂流開始後24時間は、前日にとった食糧で体を良好に保持することができるから、救命艇やゴムボートの中の少ない食糧を食べる必要は全然ない。

救難食糧

飲み水なしに食べられるのは、この救難食糧だけである。救命艇やゴムボートは小さいから限られた量の食糧しか積めないのも、非常に研究された食糧が選ばれてある。

魚釣り

救命艇またはゴムボートには、釣道具一式がそろえてある。これを利用して魚を釣り、また工夫して鳥をとる。夜間は、懐中電灯を照らすか、白い布で月光を反射させると案外魚は集まってくる。

「海員だより」